

英語長文読解問題の傾向と対策

1. 英語長文読解問題の出題傾向について

全体として500語前後の英語長文（会話文を含む）が平均2～3題出題されます。中には1000語前後の超長文を1～2題課す大学もあります。解答時間は90分前後が多いですが、超長文を課す大学は120分になります。いずれにしても、1題当たり20～30分以内で処理する必要があります。

設問は、国公立大学（二次試験）では下線部和訳・要約・指示語句説明・英作文などの「記述問題」が、私立大学ではマークシート式の「客観型選択問題」が中心になります。ただし、難関私立大学では「記述問題」もふつうに出題されますので、注意してください。どちらのパターンにしても「読解が核」になります。

英語長文の種類は、「論説文」が最も多く、次いで随筆・伝記・小説などの「文学作品」に大別されます。特に、前者の内容は、自然・環境・文化（文明）・社会・歴史・科学・テクノロジー（科学技術）・言語・教育・芸術・コミュニケーション・マスメディア・コンピュータ・国際関係・政治・経済・法律・生活・人生・医療・看護など種々雑々なので、要多読です。

2. 英語長文読解問題における「読解」について

入試の英語長文読解問題における「読解」とは、文字通り「英語長文を読んでその内容を理解すること」ですが、それに加えて忘れてならないのは、「制限時間内に設問で指示された解答を出すこと」です。

自明の理だと思われそうですが、実は、受験生の多くは英語長文の内容がわからないまま（またはわかったつもりで）解答を出そうとします。

そのため、敢えて「入試における英語長文読解問題とは一体何を意味するのか？」と言えば、それは「英語長文の内容を読み解く上での英文法や語句・構文の知識力」と、「英語長文の内容を把握した上での表現力」とを意味し、その2能力が受験生に試されているということになります。つまり、「読解力と記述力」を要求しているのが英語長文読解問題なのです。

英語長文読解問題の設問が記述型であれ客観型選択型であれ、その大半は下線部和訳・要約・指示語句説明・内容（不）一致・空所補充などで占められ、多角的に「読解力と記述力」を試しているのが実情であり、それは今後も変わることはないでしょう。

3. 英語長文読解問題の「対策」について

先に述べたように、「英語長文の内容を読み解く上での英文法や語句・構文の知識力」と「英語長文の内容を把握した上での表現力」の2点が英語長文読解問題で求められています。優先的に身につけなければならないのは、「読解力」になります。

読解力をつけるには「精読」が一番の基本になります。いわゆる英文解釈という「英文の文型や語句解釈による和訳を通じて内容を理解する練習」が非常に大切になります。本書が「精読のプラチカ」と名づけられている所以です。「プラチカ」はイタリア語に由来し、「練習」を意味します。

そこで、読解力養成に必要な作業を述べれば、以下の3点に尽きます。

① 英文法・語句・構文の知識習得

高校で使用している「リーダー」や「グラマー」に掲載の英文を読みながら、單元ごとに学習する基本的な英文法・語句・構文の知識を身につけることが土台になります。

特に英文法は英文を読んだり書いたり聞いたり話したりする上での「英語のルール」と言えるので、名詞・代名詞・自動詞・他動詞・助動詞・仮定法・不定詞・動名詞・分詞・比較・関係代名詞・関係副詞・接続詞・前置詞の基本的な働きを絶対身につけてほしい。

② 各文・各段落の文脈を意識する読み方

単に英文の文型や語句チェックや和訳で終わりにするのではなく、文と文のつながり、段落と段落のつながり、つまり「話の流れ(=文脈)を意識して読み進めること」が大切になります。英文法・語法問題の1, 2行程度の英文とは違い、英語長文は次から次へと話が展開されていくのですから、英文解釈をしながら話の流れに乗ること、言い換えれば、「筆者の論理についていくこと」を忘れないようにしてください。

論説文の場合は「中心話題とその展開(例証など)」を意識して読み、文学作品の場合は「登場人物(特に主人公)の心理や出来事の時間的経過・状況説明」を意識して読むことです。

③ 入試問題を通じての読解力強化

上記①と②で述べたことを踏まえ、「入試の英語長文読解問題を実際に解く練習を積む必要」があります。各大学の顔である英語長文とその設問がどのような性質のものなのかを知らなければ、当たって砕けろ式の無謀な挑戦になってしまいます。受験生の最終目標は「サクラ、サク」であって「サクラ、チル」ではないからです。

入試問題を通じて、特に読解力を強化するために本書「精読のプラチ

カ」が存在しますので、1題1題英語の長文を制覇してほしいと思います。「真っ当な問題集」である本書を十二分に活用すれば、「英文の読み方・考え方・解答の出し方」が必ずものにできます。

なお、本書の「問題編」の各問題には標準時間がつけられています。一つの目安としてお考えください。時間内に解答できなくてもあまり気にしないことです。また、難易度表示として「😊 😊 😊」のイラストがついていますが、順に「易・標準・難」を表します。これも一つの目安としてお考えください。解答後は、別冊の「解答・解説編」でじっくり研究をしてください。有益な情報が掲載されていますので、今後の学習にも役立つと信じております。

- agreeable「感じの良い、ふさわしい」
 verbal「言葉の」
 lasting「永続する」

- fainthearted「臆病な」★ the fainthearted は the + 形容詞 (= 形容詞 + people) の型で「臆病な人々」の意味。

構文

- ▶ 第1段落第3文: has *sufficiently progressed ... to allow us to talk ~
 → sufficiently ... to do (= ... enough to do) は「～するほど十分に…」の意味である。
 ▶ 第2段落第4文: it is conversation that completes him
 → it is ... that ~ 「～する [である] のは他にもなく…である」の強調構文。
 ▶ 第3段落第2文: that is not to discount ~
 → to discount は名詞用法の不定詞「削り引くこと」ではなくて、be to 不定詞で「義務 (命令), 予定, 可能, 意図, 運命」の意味を表している。



読解ポイント 設問をヒントに利用しよう!

1. (下線部の意味選択) & 2. (内容一致選択) → 会話

... 設問解説 ...



着眼点

英文内容はやや難ではあるが、特に設問2の選択肢を最初に読めば、本文全体の内容の大筋は理解できるし、解答できる。

1. (イ) 下線部は but (the risk could be taken) with an important condition 「しかし1つ大事な条件をつけて危険を冒すことができる (とにかくやってみよう、ただし1つ大事な条件をつけてだが)」のこと、したがって、3が正解。
 (ロ) 下線部の直訳は「危険はほとんどあまりきつい言葉ではない」であるから、選択肢1のように意識できる。
 (ハ) 下線部は (are prepared) not to struggle for monopoly 「(会話を) 独占しようとはしない」の意味であるから、正解は2。